

## 森美術館「シアスター・ゲイツ展：アフロ民藝」 世界が注目する、シアスター・ゲイツの建築プロジェクト

～話題を集めた、ロンドンのサーペンタイン・パビリオン（2022年）や、  
拠点であるシカゴを中心に展開する、地域再生プロジェクトを紹介～

森美術館（東京都港区 六本木ヒルズ森タワー53階）では、2024年4月24日（水）から9月1日（日）まで、「シアスター・ゲイツ展：アフロ民藝」を開催中です。

シアスター・ゲイツ（1973年シカゴ生まれ）は、彫刻と都市計画の教育を受け、彫刻と陶芸を中心に、建築、音楽、パフォーマンス、ファッション、デザインなど、メディアやジャンルを横断する活動で国際的に高い評価を得ています。

建築においては、毎夏、世界の名だたる建築家が手掛けるロンドンの「サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン」で、2022年に、アーティスト単独としては初めてパビリオンのデザインを手掛けました。一方、2009年に設立した財団「リビルド・ファウンデーション」では、自身が拠点とし、アフリカ系アメリカ人居住者が多数を占める米国シカゴのサウス・サイド地区で空き家となった40軒以上の建物を再生し、人々が集い、交流し、協働できる新たな拠点を創出しています。本展ではそのなかから代表的な9プロジェクトを紹介しています。

### ■ ブラック・チャペル、サーペンタイン・パビリオン（2022年）

サーペンタイン・ギャラリー（ロンドン）が、2000年より毎年夏に世界的な建築家らにデザインを依頼して実施する建築プロジェクト「サーペンタイン・パビリオン」。過去には伊東豊雄、SANAA、藤本壮介、石上純也などの日本人建築家も参加しています。2022年のパビリオンとしてゲイツが手掛けた「ブラック・チャペル（黒い礼拝堂）」。外観、内観ともに黒一色、木造の円筒形のドームの上部中央には円形の天窗が設けられ、太陽光も雨も降り注ぐその空間は、交流と瞑想のための神聖な場であるとともに、ゲイツが創作活動をとおして探求してきた「器」がイメージされています。内部には、本展でも展示されているタール・ペインティングの作品《7つの歌》が展示されました。



シアスター・ゲイツ 《ブラック・チャペル、サーペンタイン・パビリオン》（外観）[左]、（内観）[右]  
2022年  
撮影：イワン・バーン

## ■ ストーニー・アイランド・アーツ・バンク（2013年～）

ゲイツの代表的な建築プロジェクトのひとつ。シカゴ市サウス・サイド地区で1923年に開業した銀行が廃業し、1980年代から閉鎖されていた建物を2013年、ゲイツがシカゴ市から1ドルで購入。地域の文化施設としてリノベーションしました。美術展や映画の上映会のほか、バラク・オバマ元米国大統領による募金活動のイベントが開催されたこともあります。この施設には黒人史についての重要な書籍を集めたライブラリー（図書館）があり、コミュニティにおいて歴史や文化を継承する重要な役割を果たしています。本展では、そのライブラリーを再現し、ブラック・アート、歴史、文化に関する2万冊もの書籍を配架しています。



シアスター・ゲイツ 《ストーニー・アイランド・アーツ・バンク》（外観）[左]、（内観）[右]  
2013年  
撮影：トム・ハリス 画像提供：White Cube

## ■ ドーチェスター・アート・アンド・ハウジング・コラボラティブ（DAHC）（2014年～）

ゲイツ率いるリビルド・ファウンデーションと、デベロッパー、建築事務所、シカゴ住宅公社との共同プロジェクトとして、旧公営住宅団地を改修した再開発プロジェクトです。各ユニット2～3LDKの幅広い所得層向けの賃貸物件32戸と、演劇やダンスのためのスペースで構成されています。現役のアーティストと、アートのある環境に住みたい人々をつなげ、アートを中心としたコミュニティを醸成するユニークなプロジェクトとなりました。



シアスター・ゲイツ 《ドーチェスター・アート・アンド・ハウジング・コラボラティブ（DAHC）》  
2014年-  
画像提供：シアスター・ゲイツ・スタジオ、リビルド・ファウンデーション

## シアスター・ゲイツ プロフィール

1973年、米国イリノイ州シカゴ生まれ、同地在住。2012年のドクメンタ13で注目されて以来、世界の主要美術館16館で個展を開催している。イギリスの現代美術雑誌『ArtReview』が毎年発表する、アート界で最も影響力のある100組のランキング「Power 100」の2023年度版で7位にランクインするなど、いま世界で最も注目されているアーティストのひとり。2004年、愛知県常滑市「とこなめ国際やきものホームステイ」（IWCAT）への参加を機に、現在まで20年にわたり常滑市の陶磁器の文化的価値と伝統に敬意と強い関心を持ち、陶芸家や地域の人々と関係を築いてきた。本展会期中、常滑市応援大使を務める。



撮影：田山達之

## 「シアスター・ゲイツ展：アフロ民藝」開催概要

展覧会名：「シアスター・ゲイツ展：アフロ民藝」

主催：森美術館

企画：徳山拓一（森美術館アソシエイト・キュレーター）、片岡真実（森美術館館長）

会期：2024年4月24日（水）～2024年9月1日（日）

会場：森美術館（東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階）

開館時間：10:00-22:00（火曜日のみ17:00まで、ただし、8月13日（火）は22:00閉館）

\* 入館は閉館時間の30分前まで \* 会期中無休



入館料：

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,000円	1,800円	2,200円	2,000円
学生（高校・大学生）	1,400円	1,300円	1,500円	1,400円
子供（中学生以下）	無料			
シニア（65歳以上）	1,700円	1,500円	1,900円	1,700円

- \* 事前予約制（日時指定券）を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。日時指定券の販売開始日は決まり次第ウェブサイトでお知らせします。
- \* 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。
- \* 表示料金は消費税込
- \* 本展のチケットで、同時開催プログラムもご鑑賞いただけます。

同時開催：「MAM コレクション 018：グエン・チン・ティ」

「MAM スクリーン 019：1980～1990年代、台湾ビデオ・アートの黎明期（上映編）」

「MAM リサーチ 010：1980～1990年代、台湾ビデオ・アートの黎明期（展覧会編）」

一般のお問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

詳細：森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

\* 最新のプレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/theastergates/>

お問い合わせ：森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）

担当：日比、松川、和田、伊原

Mail：[mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)